

授業と評価の年間計画

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	
履修条件 対象生徒	必修 普通科・理数科 3年			
学習目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。			
学習方法	<p>【授業】 予習は必須。予習の段階で辞書や文法書を十分に活用しておき、授業に積極的に参加する。失敗を恐れず英語を口にし、ペアやグループで活動する中で、実際の英語の使用場面をイメージしながら英作をしたり、会話をしたりすることが大切である。また、多くの基本例文を暗唱することは、表現力向上に有効である。</p> <p>【家庭】 辞書や文法書を利用し、教科書の設問を解答しておく。1時間の授業を受ける準備を入念にできるならば、授業の受け方も変わってくる。和文英訳の問題は様々な書き方があるので、柔軟に考えて、表現を楽しもう。ダイアログの箇所は音読をしておこう。</p> <p>【補習・その他】 新しく学習した表現や語句を利用して、まとまった内容の英文を書くことによって表現力が身に付く。</p>			
学習計画 と ねらい	<p>1 1学期 (1) 中間考査まで 比較級、最上級 (2) 期末考査まで パラグラフの構成</p> <p>2 2学期 (1) 中間考査まで 原因、理由、結果、要約 プレゼンテーション (2) 期末考査まで ディスカッション ディベート</p> <p>3 3学期 学年末考査まで 大学入試実践問題演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取り ・意見発表の原稿準備 アウトライン作成 ・プレゼンテーション原稿準備 プレゼンテーション発表及び評価 ・ディスカッションの進め方/ 例 ディスカッションに役立つ表現/ 評価 ディスカッション演習 ・ディベートの進め方 ディベートの準備 ディベートの注意点/ 判定/ 表現 ディベート演習 		
評価規準	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化について の知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしたか。	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えたか。	外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解したか。また、それらを次の言語活動に生かしているか。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解したか。
評価方法	①定期考査 ②授業態度 ③課題・提出物 ④小テストなどを総合的に判断して評価する。			
その他	センター試験では、論説文や小説の読解問題に加え、グラフの分析などが求められる。また、大学の個別試験では、和文英訳に加え、自分の考えを英語で論理的に述べることが要求される。学習した表現を用いて、アウトプットする訓練を行う。			

--	--